

補助輪なし自転車との格闘

臨床工学科支部 立花博之

昨年の冬のこと、当時幼稚園年中の5歳になったばかりの二女が、長女に触発されて自転車の補助輪を取りたいと言ってきました。その少し前、妻と私で遠回しに「自転車の練習する？」と提案はしてきましたが、なかなか聞き入れてくれなかったところでの出来事でした。「やっときたか」と心で叫び、早速近くの公園に出向き練習を始めました。およそ4年前、長女の時は5歳になる前にチャレンジし、小一時間もすると難なくと補助輪なし自転車に乗れるようになりました。その経験から「今回も」と楽観的に考えていました。

さて、はじめは自転車にまたがって歩くことからです。逸る気持ちを抑えて公園内を1周、2周・・・、小一時間回ったでしょうか。飽きないように話をしながら、コースに変化をつけながら。ハンドルを操作する手が少しくまくなったところでそろそろ次のステップに。自転車の後ろを支え、サドル跨がらせ・・・隣のお姉ちゃんの真似をさせながらペダルを漕ぐことを教えいざ・・・

「動かない」。足をついたままその状態で固まりペダルを漕ぎ始めません。自転車の後ろを持っているから大丈夫だと諭しながら辛抱強く待ちました。20分ぐらい経過したでしょうか。ようやく漕ぎ始めましたが・・・ひと漕ぎだけでそれ以上ペダルを漕ごうとしません。結局この日は3時間近く公園で過ごしましたが、大きな収穫がないまま終わり、次回に持ち越しとなりました。

数カ月後、再チャレンジの時が訪れました。時はたち、季節の変わりを感じ始める頃になっていました。幸いにして、自らやりたいと行ってきたので、気が変わらないうちに練習に向かいました。ところが、前回と同じくサドルに座って「動かない」。挙句の果てに10分程で今日は帰るという始末。時は6月になり再び自転車の練習をすることになりました。このとき次女は年長さん。周りを見回すと年長さん友達がポロポロと補助輪なし自転車に乗れるようになっているようで、改めて自分もその気になった様子でした。3度目の正直です。あまり過大な期待をすることなく、練習に向かいました。練習中、何度か転倒するも、泣きべそをかくも、この時は辛抱強く練習してくれました。練習を始めて2時間ほど過ぎた頃でしょうか。突然その時がやって来ました。「乗れたね！」本人は得意顔です。

振り返ると半年と少し、かつて、自分が自転車に乗れるようになった頃のことを断片的に思い出しながらのことでした。この出来事、次女はいつまで記憶してくれていることでしょうか。